



ワー こわいよ 泣いてる顔にも福来たる (えびす祭り 1月10日)

# さがわ *Sakawa* 議会だより

45  
2011.2.1

## 12月定例会

contents 目次



白水の滝 (斗賀野)

- 副議長・常任委員会委員、決まる 2
- 子宮頸がんワクチンが無料化 5
- 佐中グラウンド整備、早急性あるか(一般質問) 12
- 尾川小中一貫校へ移行 (あの質問のゆくえ) 18

# 旧佐川中学校グラウンドを整備



12月定例会は、7日より9日までの会期で開かれました。

平成22年度補正予算や条例改正など、議案9件、報告1件、諮問1件、議員発議による意見書3件を審議し、採決の結果、全会一致または賛成多数で全件可決しました。

この中で、旧佐川中学校グラウンドを佐川町総合文化センターの附属施設として整備するため、約6000万円の補正予算が計上されました。

10月25日に臨時会が開かれ、副議長や各常任委員会の委員長をはじめ、議会の新しい人事構成が決まりました。

議員の役割と責任自覚し

しっかりと取り組む



副議長  
西村 清勇

このたび、各議員のご推挙により、再度、副議長に選出いただき、誠に身に余る光栄と責任の重大さに身の引き締まる思いがしています。

昨年は春早々から遅霜や夏の猛暑により農作物などに大きな被害ができました。今年こそは良い年であってほしいと願うものです。

本町では高北病院の改築や中学校の跡地についても、厳しい財政の中で取り組んでいかなければなりません。町内には救急車や消防車も入れない

場所も多くあり、こういったところも早急に改善しなければならぬと考えています。

また、少子高齢化に伴う福祉行政への取り組みや一次産業の取り組みも必要です。議員としての役割と責任の重要性を新たに認識しており、しっかりと取り組んで参ります。

皆様方のご指導とご協力を賜りますようお願いを申し上げます。就任のごあいさつといたします。

## 議会運営委員会

議会の日程、議案や一般質問の取り扱いなど議会運営を円滑に行うために必要な事項や、議長からの諮問事項を審査します。

前列右より  
○ 氏原 義幸  
○ 藤原 健祐  
◎ 徳弘 初男

後列右より  
○ 岡村 統正  
○ 松浦 隆起  
○ 片岡 勝一



◎委員長 ○副委員長

## 総務文教常任委員会

主に総務課、税務課、教育委員会などの所管に関する事項、請願、陳情を調査・審査します。

前列右より  
○ 今橋 寿子  
◎ 徳弘 初男  
○ 藤原 健祐

後列右より  
○ 岡村 統正  
○ 永田 耕朗  
○ 西村 清勇  
○ 片岡 勝一



◎委員長 ○副委員長

## 産業厚生常任委員会

主に産業建設課、国土調査課、健康福祉課、町民課、病院などの所管に関する事項、請願、陳情を調査・審査します。

前列右より  
○ 松本 正人  
◎ 中村 卓司  
○ 嶋崎 正彦

後列右より  
○ 坂本 貞雄  
○ 松浦 隆起  
○ 森 正彦  
○ 氏原 義幸



◎委員長 ○副委員長

# 12月定例会で決まりました



平成22年度12月補正予算

(単位：万円)

会計名		補正額	補正後の額
一般会計		9908	66億6175
特別会計	国民健康保険	301	18億6128
	後期高齢者医療	△7	1億9538
	介護保険	109	15億5635
	病院事業	540	18億2322

(病院事業は、収益的、資本的、支出額の合計)

## 条例改正

旧佐中運動場が  
文化センターの  
附属施設に

旧佐川中学校の運動場と柔剣道場が佐川町総合文化センターの附属施設となる。第2運動場と第2補助体育館として管理を行う。

(1月1日施行)  
(賛成・全員)

## 町道認定

町道 ふるさと

黒岩線 認定

黒岩小学校、JAコスモス黒岩事業所などに隣接介在する旧県道を町道ふるさと黒岩線として認定するもの。

(賛成・全員)

## その他

「協働の森」  
パートナーズ

高知西ロータリークラブ、高知県、佐川町の3者により「協働の森」パートナーズ協定を結び、その協賛金として、同クラブより90万円の寄附を受けるもの。この協定は二酸化炭素の削減と森林の公益的機能を高める事業を3年間実施するもの。

(賛成・全員)

## 人事

人権擁護委員

西森 精一 氏

佐川町本郷耕

1127番地



認定された、ふるさと黒岩線

**12月  
補正予算  
ピックアップ**

各保育所にAED設置  
**257万円**

町内の7つの保育所にAEDを設置するもの。

**居宅サービス**

**2200万円**

障害者の方たちへの在宅支援のサービス増加等によるもの。

町営住宅地上デジタル化改善工事  
**742万円**

地上デジタル放送への移行へ向けて、町営住宅の地上デジタル化改善工事を行うもの。

子宮頸がん等ワクチン接種助成事業  
**222万円**

国の子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進臨時特例交付金による補助と町による補助により、一月からワクチン接種の無料化を行うもの。  
対象者は子宮頸がんワクチンは中学1年生から高校3年生、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンは0歳から5歳未満の乳幼児。

旧佐川中学校グラウンドの整備に  
**6000万円**

旧佐川中学校のグラウンド整備をするために、土入れ、防球ネット、バックネットなどの整備を行うもの。



観光の中核施設 青山文庫

青山文庫の改修に  
**846万円**

展示室の改修工事や展示用備品の購入を行うもの。

平成22年  
**第3回臨時会**

10月25日開会

さくら荘改修工事  
**1113万円**

デイサービスセンターさくら荘の安全性向上のための拡張・改修工事を行うもの。

旧佐川中学校グラウンド  
測量設計に  
**442万円**

旧佐川中学校のグラウンド整備などを行うための測量設計委託料。



利用者のために施設の改善

人 事

固定資産  
評価審査委員

織田 和主 氏  
佐川町平野525番地

## 議案質疑

提出議案に対して、各議員から出された質問の主なものを紹介します。

### 臨時交付金、生活のために使うべき

中村議員 補正予算には1億近くの大きい金額が出ている。特に旧中学校のグラウンドの工事が大きい金額だ。この財源には国の「地域活性化・きめ細かな臨時交付金」が多く含まれていると思うが、どれぐらい含まれているのか。また、この交付金は地域の生活のために使うのが本来の姿ではないか。

榎並谷町長 補正予算はなるべくない方が理想だが、諸般の情勢の中で必要になる部分がある。

今回のグラウンド整備は、社会体育系のグラウンドが不自由しているのが理由だ。急遽提案したもう一つの理由は、町外から使っていた団体があり、それを将来の交流人口の増加につなげ、町内の活性化にもつなげたいとの思いがある。

岡林総務課長 財源の多くは結果論としては、財政調整基金の繰入金で充たれることになる。臨時交付金はまだ確定していないため、繰入金という形で対応している。確定して初めて、この繰入れの部分に充てていく作業に入る。

### 臨時交付金の使い道は

松本議員 国からの臨時交付金はどういったものに使われるものか。

岡林総務課長 「きめ細かな臨時交付金」は地域の活性化のニーズに対応した取り組みに充当できると理解している。



社会体育施設として整備が進む

## 旧佐中グラウンド整備に 質疑が集中

もうひとつの「住民生活に光をそそぐ交付金」は、住民生活にとって大事な分野でありながら、光が十分に当てられなかった取り組みを支援するもの。

### 町民の声 聞くべきだ

森議員 社会体育施設としてグラウンド整備することは必要なことだ。

ただ、ソフトボールのオープン戦を行うために早急に整備をすること、町民は望んでいるの

かどうかわからない。ソフトボールの大会を呼ぶために、特別にどれだけかかるのか。中学校の通学路の要望を再三したが、なかなかできなかった。一方で、突然よそから来る大会のためにお金を費やすギャップが理解できない。町民の声を聞くべきではなかったか。

川井教育長 ソフトボール大会のためだけにいる経費はホームラン用ネットの230万円だ。町民の声を聞くべきでなかったかという指摘については、十分反省しており、もっと早い段階で、全体計画を議会、町民、体育会関係者に示すべきであった。その点は、まだ十分ではない。

榎並谷町長 説明の時期が遅い点については、大いに反省し、今後の行政運営の参考にさせていたが、予算内容について、これが先で、グラウンドが後でといったような問題ではないと思って

### 体育会等の 協力必要

いる。全部が全部、一つ一つ町民の方に相談するという仕組みにはならない。

今橋議員 体育会やスポーツクラブの方たちの意見を聞きながら協力してもらうことが必要ではないか。大会開催時に職員も協力するのか。

また、経済効果をどのように見込んでいるのか。

川井教育長 体育会と体育指導委員会、さくらスポーツクラブには理解と協力をお願いしており、一定の理解はいただいている。大会運営は、実行委員会ですべて対応し、基本的に職員が出ることとは想定していない。

榎並谷町長 経済効果については、町内の旅館をフル活用していただけていると考えている。

# 意見書

## 国にもの申す

総理大臣をはじめ、  
関係機関に意見書を提出

### トンネルじん肺 根絶に向けた 抜本的な対策を 求める意見書

(提出者 中村卓司)

トンネル建設工事におけるじん肺の発生は、今なお大きな社会問題となつている。

トンネルじん肺は、その多くが公共工事において発症することも十分に踏まえ、根絶に向けた抜本的な解決が早急に図られなければならない。

政府においては、合意書に基づきトンネルじん肺根絶のための対策を行うとともに、建設業者の関係者の理解を進めることなどにより、トンネル建設労働者の就労管理、健康管理などを一元的に行うよう、じん肺被災者の早期救済を図る「トンネルじん肺基金」の創設を速やかに取り組まれるよう強く要望する。

(要旨)

(賛成・全員)

### TPP交渉に 反対する意見書

(提出者 氏原義幸)

政府が11月9日に閣議決定した「包括的経済連携に関する基本方針」の中で、例外なき関税撤廃を原則とするTPP（環太平洋連携協定）に対しては、関係国との協議を開始することを決定している。米国やオーストラリアなど主要農産物輸出国が加わっているTPPに参加し、すべての農産物関税が撤廃されれば、わが国の食料・農業・農村に壊滅的な打撃を与えることは火を見るよりも明らかである。

本県においても水稲や畜産はほぼ壊滅し、野菜・果実等の生産も多大な影響を受けることが予測される。農業だけでなく、高知県全体の社会的・経済的活力を減退させることになる。

例外なき関税撤廃を原則とするTPP交渉には

参加せず、各国・地域とのFTA・EPA交渉においては、食料自給率が極端に低い現状や、将来の食料需給に関する国民の懸念、国土の保全等に十分配慮し、農林水産物の例外品目の確保、十分な国内対策等、国内の関係品目に影響が生じないよう対応することを要望する。

(要旨)

(賛成・多数)



日本の原風景を守りたい

### 地方整備局並びに 出先事務所の廃止 に反対する意見書

(提出者 岡村統正)

今後、必ず発生する東南海・南海地震による大規模災害対策及び台風被害など、県及び市町村では解決できない災害対策や国民の生命・財産を守るために必要な事業については、引き続き国がその責任において実施すること。

また、本県の遅れている社会基盤のネットワーク整備については国の責務において実施し、住民の安全・安心な生活を脅かし、地域間格差の拡大につながる直轄事業の地方移譲及び地方整備局並びに出先事務所の廃止は行わないよう強く要望する。

(要旨)

(賛成・全員)

## 23年度も公費助成の継続を

健康福祉課長 **継続して行う**

松浦 隆起 議員



## 8人が町政を問う ここが聞きたい

子宮頸がん等の予防ワクチンへの公費助成が国の補正予算に盛り込まれ、本町でも補正予算に計上され、公費助成が行われることになった。23年度も助成事業を継続すべきだ。

また、中学生を対象とした、任意の集団接種等も検討できないか。制度はできるが、接種してもらったことが重要だ。広報などを使った啓発活動もしっかり行うべきだ。

下川健康福祉課長 23年度も継続して、助成を行う、高校2年生、3年生についても県の単独事業とあわせて助成を行う。

集団接種等については、学校現場と十分協議を行いたい。

広報を通じて積極的に情報提供を行う。

### 通学路の安全対策

## 危険箇所へ防犯灯設置を

町長 **新年度での対応、検討する**



1日も早い防犯灯の設置が求められている

通学路の危険箇所への防犯灯は再三要望を行ってきたが、いまだに設置されていない。通学路の安全灯として、危険箇所を指定し、新たな規則のもと、設置すべきだ。特に、死亡事故が発生した県道については早急に設置すべきだ。

榎並谷町長 地域の受益者がいない通学路については、条例等を整備し、救済措置をどうするか、年度内に検討し、新年度で対応していくよう検討する。県道については、経過を見ながら対応したい。

### 教育環境

## 校庭の芝生化の取り組みを

教育長 **モデル的に1校程度検討**



芝生、ころんでもいたくないよ

校庭の芝生化は教育、環境、地域コミュニティ、防災等、幅広くメリットがある。鳥取方式を取り入れれば、低予算で行うことができる。子どもの教育環境向上のためにも、まずは1カ所からでも取り組むべきだ。

岩本教育次長 学校や保護者、地域の皆さんの協力が絶対条件となる。協議を行い、取り組める学校があれば、モデル的に1校程度、実施面積もあわせ、検討したい。

## 見直しをすべき

町長 抜本的見直しはしない

総合計画は自治体における唯一の総合的な政策体系で、他の個別分野の計画を包含する重要なものである。策定して5年目となっている。時代も政権も変わった。検証をすることも、見直しをすべきではないか。また、進行管理もすべきだ。

岡林総務課長 基本構想と基本計画を一致させるとの観点から今の計画を生かすことを最優先とし、見直しはしない。進行管理は当然、やっていく。榎並谷町長 抜本的な見直しはしないけれども、検証を早く行う。

### 行政改革

## 第4次改革大綱、策定すべき

総務課長 必要ない

平成18年度から22年度までとなっている集中改革プランの進捗度合いを数値で示せ。そして、第4次佐川町行政改革大綱を策定すべきだ。また、プランにある、指定管理者制度の今後の計画は。岡林総務課長 33項目中達成しているのは20項目、60・6%だ。残りの項目は今後継続して努力する。集中改革プランは、一定進展しているし、残った部分を努力していけば、第4次の計画は必要ないと考えている。榎座と地質館は現在、基金で運営しているが基金も減少しているため、指定管理者制度も含めた運営方法を検討する。



森 正彦 議員



今後の運営が危惧される地質館

### 予算編成方針

## 重点指示内容は

総務課長 防災・少子化対策、協働推進事業

23年度の予算編成方針の重点指示内容と新しく入ったものは何か。

岡林総務課長 財政健全化計画の確実な実行、行政改革大綱と集中改革プランの実行、総合計画の予算反映の3点を示した。具体的には、防災対策、少子化対策、協働推進事業で、中身は自主防災支援事業、乳幼児医療費助成事業、街なみ環境整備事業等だ。新しい事業については、まだ、各課からの予算要求が来ていない。

その他の質問

○危険な場所に、街路灯設置はできないか。



各地区に広がる自主防災組織



氏原 義幸 議員

### 高齢者施策

## 低額の老人ホーム建設を

町長 慎重に対応していく

低額で入所できる老人ホームの建設を、との質問を前に行った。町長からは「財政的にも厳しい。高齢者向け施設の建設の必要性は認識しているが、消極的である」との答弁だった。その考えは変わっていないか。



自然相手の苦労はたえない

榎並谷町長 安い老人ホームということは、分かるが、一方で負担が増えていくという懸念がある。慎重に対応していかねばならない。今の状況では、前回の答弁を変えるわけにはいかない。

### 農作物被害

## 被害状況は

産業建設課長 茶、梨に大きな被害

春の晩霜、夏の猛暑、鳥獣により、本町の農作物に被害が多く発生している。被害状況と今後の対策は。  
渡辺産業建設課長 春先には霜、凍害で茶が65haの被害を受け、梨も裂果被害など、茶以上の被害を受けた。その他の作物にもそれぞれの被害があった。対策として資金の貸し付けや補助事業があり、関係者と連携を取り対応する。  
鳥獣被害はイノシシの被害が多く、捕獲頭数も昨年の2倍の41頭だ。今後の対策は12月13日の有害鳥獣被害対策協議会で検討する。

### 農業振興

## 薬草栽培、今後の計画は

産業建設課長

面積拡大に努める



広がる薬草栽培

平成20年9月議会においての答弁で、越知のヒューマンライフ土佐の薬草栽培拡張計画で本町にも要請があったと聞いたが、その後の本町の薬草栽培面積と今後の計画は。

渡辺産業建設課長 本町の栽培面積はミシマサイコ、2.5ha、サンショウ、2.1ha、粳米、3.1haとなっており、その他ダイダイなどの普及も進んでいる。さらに粳米については交付金があり、連携を深めて薬草栽培の面積拡大に努める。  
また、関係機関、特に普及所等の指導、協力を得ながら推進する。

その他の質問

○ 税徴収率の低い要因は何か。



中村 卓司 議員

平成5年にソニアができて、5000万、6000万円の赤字が続ぎ、1億を超し、平成22年まで続いている。3町の町長が理事であり、取締役の関係であり、大きな責任がある。個人的にも

### ソニア存続問題

## 町長、取締役、個人としての責任どうとる

町長 経営者の責任、逃れられない

ごい責任がある。町長、ソニアの役員、個人、それぞれの立場として、どう責任をとるのか。

榎並谷町長 町長の充て職として引き受けた経過があり、引き受けた以上責任がある。役員の1人として、経営に携わり、努力をしてきたが、現在に至っており、大変迷惑をかけていることは認識している。ただ、その損失を賠償できるかといえ、できるとはいえない。裁判等、公的な機関から経営者が責任を取れということになれば、逃れるわけにはいかない。



ソニア決着 どうする

### 地域活性化

## 酒特区、取れないか

産業建設課長 希望があれば、進めたい

県下において、三原村、南国市など何カ所か、酒特区を取っている行政がある。町の活性化につながると思うが、本町でも酒特区を取れないか。渡辺産業建設課長 町としても活性化になればすばらしいと思う。県内では三原村をはじめ8市町村11カ所あり、町民の希望があれば窓口となり、進めたい。

### 道の駅

## どこまで進んでいるか

産業建設課長 専門家の意見聞き、進めている

道の駅について、年内に委員会を開き段階的に取り組むと、9月議会において、前向きな答えがあったが、今どのようなところまで進んでいるか。

渡辺産業建設課長 工科大学から専門の方に来てもらい、意見を聞かせて

いただき、関係機関の方々と話し合いながら進めている。会議を開かず、今日に至っているが、年度内には、商工会、議会、関係の方々に集まっていただき、取りかかろうの会議を開催したい。

- その他の質問
- 次年度予算案の基本的な考え方は。
- 役場職員の職務内容は。



検討が始まった道の駅 (写真はあぐり窪川)



今橋 寿子 議員

### 教育環境

## 保育行政と教育行政の連携は

教育長 質・量ともに一層充実していきたい

佐川町内には7つの保育園があり、県内でもレベルの高い保育がされている。これから二層、幼児教育も重要視されなければならぬ。本町では、どういった方針のもと環境づくりがなされているのか。

保育行政、教育行政は縦割りであるが、学校との連携を具体的にどう取り組み、文教のまちの子どもとして、どう育てていきたいのか。

榎並谷町長 家庭、保育施設、学校が一連となつて連携を深めていく。

下川健康福祉課長 本町には幼稚園はないが、各保育園の積極的な取り組みや独自の保育活動によって十分環境が保たれており、幼児期の教育が停滞することはない。

川井教育長 保小の連携は幼児教育と学校教育が円滑に接続するために重要であり、今以上の連携により質と量を一層充実していきたい。

### 町政運営

## 職員の士気どう高める

町長 自己研修を勧めている

住民サービスに向けては、職員の力なくしてはならず、職員の士気をどう高めていくのかが重要

だ。職員の士気が弱まる原因は職員数の少ないことも原因になると考えられる。職員がわがまちとしての考え方に立ち、オールマイティな仕事ができる状況にするべきだ。

榎並谷町長 私も含め、職員は公僕である。お互いの資質を高め事務効率を上げることが住民サービスにつながるかと考えている。人が少ないことが士気が上がらない原因にはならない。職員には自己研修することを訴えている。



幼児教育に力を入れている保育所



年度内完成に向けて工事始まる

### 旧佐中跡地利用

## グラウンド整備、早急性あるのか

町長 一定の経過を踏んできた

中学校跡地のグラウンド整備として6000万円という巨額の補正予算が

組まれているが、補正予算に組むほどの早急性があるのか。早急性のメリットと経済効果を示せ。

流人口が増えていくと考えている。経済効果として特に試算はしてないが町内の旅館が満杯になることが想定される。

榎並谷町長 急な話で心配をかけた点は反省している。グラウンド利用については一定の経過を踏んできた。今年に入って

からソフトボールのオープン戦の話があり、これが将来につながれば、交

### その他の質問

○ふれあいサロン、ミニデイの今後の対策は。



坂本 貞雄 議員

関税を撤廃して完全自由化されるTPPに参加した場合、本町の農業への影響が心配される。高知県議会も反対の意見書を採択し、全国町村長大会でも反対の特別決議が採択された。町長はどうか考えるか。

### 環太平洋経済協定

## TPPの本町への影響は

町長 壊滅的打撃考えられる

榎並谷町長 TPPへ参加した場合、本町でも壊滅的な打撃が考えられる。このTPPの今の議論の参加については、きつく断固として反対の意志を持っている。

### 国民健康保険

## 基金活かし、低減すべき

町民課長 低減できる状況にない

国保会計の基金2億8000万円を活用して、町民が高いと感じている国保税を低減すべきだ。藤本町民課長 国保の基金は2億8600万円あるが、昨年、単年度収支は5000万円の赤字で、今年度も1億800万円の基金繰り入れがあるなど財政的に厳しく低減できる状況にない。



もっときれいにしたい春日川

### 農作物被害

## 再生産への支援を

産業建設課長 資金借り入れ、関係機関と対応

春の霜害、夏の記録的な猛暑などの異常気象によつて農産物の減収が大さい。農家への影響を調査して再生産へ向けての支援の手を差しのべるべきだ。

渡辺産業建設課長 日本政策金融公庫の農林漁業セーフティネット資金がある。再建のための資金貸し付けで、300万円、10年償還、変動金利3年間据え置きとなっており、借り入れをした農家もあり、今後も関係機関と一緒に、対応していきたい。

### 春日川の再生

## 合併浄化槽の普及率は

産業建設課長 春日川流域は40%

今年国連の決めた国際生物多様性年である。春日川をきれいにしてよつとの立て札が立っているが、春日川流域の合併浄化槽の普及率の現状と、今後の取り組みは。渡辺産業建設課長 合併浄化槽の普及率は町全体で35%、町の人口の約半分を占める春日川流域は40%である。佐川町生活排水処理構想を見直し、一層の合併浄化槽の普及を位置づけており、春日川の河川環境の改善に努めたい。

TPPとは…。環太平洋戦略的経済連携協定のことであり、アジア太平洋での自由貿易圏の構築を目指すためのもの。参加国間において、貿易に関する関税の撤廃を原則とし、例外規定が少ない完全自由化と言われている。



西村 清勇 議員

### 有害鳥獣対策

## 電気柵設置に補助金あるか

産業建設課長 本町では取り組んでいない

渡辺産業建設課長 補助金の割合は県3分の1、町村3分の1になっている。補助対象は、3戸以上が連担し、かつその面積が10アール以上ある場合が補助対象になっているが、本町ではまだ取り組んでいない。

鳥獣被害対策で電気柵設置に対しては、他の町村では70パーセントの補助があるとのことだがその内訳は。  
また、本町では補助金対策はしていませんのか。



獣害対策に効果ある電気柵

### 家庭ゴミ

## 小さい袋できないか

町民課長 衛生担当者会で提案する

高吾北清掃センター指定のゴミ袋は大と小の2種類になっているが高齢化が進み一人か二人の家庭が多く、小の袋でもまだ大きすぎる。今の半分の袋にできないか。  
藤本町民課長 高吾北広域町村事務組合高吾北清掃センター手数料条例に基づき広域で指定袋を作成している。佐川、越知、仁淀川3町と広域の衛生担当者会の席で提案をする。



目立つ耕作放棄地

### 農業施策

## 下限面積2反にすべき

農業委員会事務局長 農業委員会総会で議論

本町では農地取得の条件として3反以上の耕作面積が必要となっている。高齢化が進み農地が荒地になっているが、せめて2反くらいにして、荒れた農地でも買ってもらう、畑にしてみらうことが必要ではないか。

横畠農業委員会事務局長

現在、下限面積は農業委員会によって設定できると規定されている。下限面積の決定は農業委員会総会でないとできない。総会に報告し、議論したい。

その他の質問

- 玉割小橋と佐川トンネルの歩道の進捗状況は。
- 緊急避難場所のトイレの対策は。
- 町のバス、買い替えは。



松本 正人 議員

鳥獣対策は全国で問題となつているが、本町でも例外ではない。本町では捕獲報奨金制度を設けているが、猫をするにはコストが合わないという声がある。仁淀川町では平成20年度に報奨金を上げ、効果が出ていると聞

### 有害鳥獣対策

## 被害実態踏まえ 重点的に取り組むべき

産業建設課長 協議会の提案受け、予算化

いている。有害鳥獣被害対策協議会において、こうした例も踏まえ、被害の実態調査や捕獲コスト、電柵やわななど総合的によく調べて重点的に取り組むべきだ。

渡辺産業建設課長 現状では被害のあつた方から駆除申請をしてもらい、駆除許可を出し、猟友会に駆除してもらっている。

今後は、有害鳥獣被害対策協議会において、それぞれのメンバーから提案を受け、予算化できるものについては、来年度には予算化できるように



イノシシ捕獲に一役

### 高北病院耐震化事業

## 時間かけじっくり取り組むべき

病院事務局長 基本設計しっかり行う

高北病院の耐震化に伴う建て替え事業については、9月議会で計画図が示された。現在どのように入っているか。建設については、補助制度等に差し障りがない限り、できるだけ時間をかけてじっくり取り組むべきだ。

また、建物等のハード面だけでなく、病院に従事する労働者の労働条件も大事にすべきではないが。

笹岡病院事務局長 現在、基本設計を行っているが、時間がかかっている。全体には遅れが出てきそうだが、基本設計にはしっかり時間をかけた。

労働条件も、組合の意見も聞きながら働きやすい職場環境をつくるよう頑張っている。

### 医療費無料化

## 中学生まで無料にすべき

町長 小学6年生までで線引き

中学校までの医療費無料化は、予防フクチンの補助よりは、実施可能ではないか。特に義務教育時代はだれかが守つてやらなければならない。ぜひ、実施すべきだ。

榎並谷町長 乳幼児の医療費は、国、県の補助があり小学校6年まではあくまで少子化対策の一環として町単独で実施している。中学生は大人ではないが身体的には大人の部類だ。自己管理のできる段階にあり、小学6年までの線引きは費用の問題ではない。



写真左が建設予定地



わがまち



# 佐川町食生活

## 改善推進協議会

わがまち「人」では、この佐川のまちで元気に活躍されている方にスポットをあて紹介します。今回は、食生活改善に取り組んでいる佐川町食生活改善推進協議会、会長の矢野博子さんにお話を伺いました。



矢野 博子 さん

— 食生活改善推進協議会はどんな活動をしていますか。

ボランティアで地域の食生活改善に取り組んでいます。活動内容は「私たちの健康は私たちの手で」をスローガンに掲げ、自分や家族の健康を守るとともに、研修の成果を地域に広げる活動をしています。

— 活動に取り組むきっかけは何ですか。

子育ても終わり時間的に余裕ができて、何か役立つことを思っていたとき、食生活改善推進員の講座があり料理も好きだったので受講し推進員になりました。初めは、郷土料理の伝承や減塩の普及を中心にしていましたが、近年は幅広い年代の方々への食育に取り組んでいます。

— 活動を始めて何年ですか。また、会員は何人いますか。高知県の会長も務められているとのことですが。

今年で24年になります。現在女性ばかり57人ですが、にぎやかに楽しくやっています。私たち、佐川の活動が認められて、県の会長に

— 食育については、具体的にどんなことをしていますか。

子どもには朝ごはんを食べること、親には幼い頃からの食生活の大切さを伝える「もぐもぐモーニング事業」に力を入れています。食育教室の学校訪問が好評で年間15回以上実施しており既に10年を超えました。

— 朝食をとらない子どもが増えているとか。

食生活全体が乱れていますが、朝食をとらないと、脳が十分働かず勉強や遊びに集中することができないし、疲れやすくなります。保護者の方には朝食が一番大事なことを伝える「もぐもぐモーニング事業」に力を入れています。食育教室の学校訪問が好評で年間15回以上実施しており既に10年を超えました。

— 今までによかったこと、うれしかったことは。

活動の成果として県全体の塩分摂取量が減ったこと、団体として厚生労働大臣賞を受けたときは、うれしくて皆で泣きました。それと個人としてはボランティアの楽しさと喜びをいただいたことですね。

— 最後にこれからの抱負をお聞かせください。

みんなが健康で幸せに暮らしていけるように、もっともっと、食生活改善の輪を広げていきたいですね。

— ありがとうございます。期待いたします。

あなたの周りに、人知れず「佐川のまち」の元気のために活躍されている「人」をぜひ、ご紹介ください。ご連絡は議会事務局まで。



事前準備が大事な作業

### 栄養のバランスで、からだづくり

♡佐川に恋して♡

# 佐川町へのラブレター

■佐川町のどんなところが好きですか。

自然がきれいで、静かで、住みやすいところが好きです。

■仕事は楽しいですか。

障害者の方と働き、支援をしながら、たくさん学ぶことがあります。毎日勉強ですが、やりがいのある仕事だと思います。皆で笑ったり怒ったり、泣いたり、大変なこ

とも多いですが、結構楽しんでます。

■趣味はなんですか。

休みの日に掃除をしたり、園芸を楽しんでいます。ドライブも好きですね。

■どんなタイプの男性が好きですか。

怒らない、包容力のある人ですね。

いつも笑顔の和加さん。これからもみんなの笑顔の真ん中で、がんばってください。



みもと わか  
三本 和加 さん

障害者支援施設 職業指導員（上郷）

## 「志国高知 龍馬ふるさと博」発進

### 青山文庫

「龍馬ふるさと博」の中核施設に



文教の町・佐川町。その代表ともいえるのが、牧野公園のふもとにたたずむ青山文庫。今、その青山文庫が大きな役割を果たそうとしている。昭和38年に建築されたこの文庫には、あの坂本龍馬をはじめ維新関係の資料など貴重な資料が多く保存、展示されている。しかし、残念なことに、昨年の「龍馬伝」による本県の観光ブームのチャンスを生かされることができなかった。

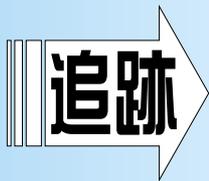


志国高知 龍馬ふるさと博  
平成23年3月5日(土)～平成24年3月31日(土)

先月、3月5日に開幕する「志国高知 龍馬ふるさと博」の推進協議会が開かれ、「志の偉人伝」をテーマにした中核施設のひとつに青山文庫が決定した。12月議会には、青山文庫改修のための予算も計上され、貴重な資料の保存体制がさらに整えられることになる。

「龍馬ふるさと博」の関連施設に選ばれたことは、観光振興にも取り組む本町にとって、はからずもまわってきた、願ってもない絶好の機会となった。

今回の好機こそ、必ず生かしてもらいたい。



# あれはどうなったが？

あの質問のゆくえ

No.16



地域の思いで、移行準備が進む尾川小中学校

## 尾川小中一貫校結論を出すべきだ

(平成21年12月定例会)

教育一貫校の問題について、教育長は、地域教育推進協議会ではなく、尾川を中心としたいろいろの人の要請を受ける組織を立ち上げ結論を出すとのことだったが、腰を上げるのが遅い。来年度には結論を出すべきだ。

(岡村統正 議員)

## 教育長 答弁

### 3月までに結論を出す

1月には、尾川地区の今後を考える会からのアンケートの結果が出る。地域で方向性を検討してもらっており、教育委員会としては、その結果を受け慎重に対応をしながら、3月までに委員会としての結論を出す。

(藤田教育長)

### 24年度より一貫校に移行

平成23年度より教育一貫校としての移行準備に入り、24年度より小学校、中学校教育一貫校として移行するように教育委員会として決定した。

22年10月教育委員会発表

どうなった

あなたが選んだ議員の仕事ぶりを見にきませんか？

次の定例会は3月8日午前9時開会予定です。傍聴においでください。

## 議会広報編集委員会

※わかりやすい紙面にと心がけています。読後のご感想、ご意見をお寄せください。

委員	委員	委員	副委員長	委員長
森 正彦	片岡 勝一	松浦 隆起	坂本 貞雄	岡村 統正

移動手段に車は欠かせないものです。大晦日から元日にかけて年越し寒波の襲来があり、積雪がみられました。最近、雪道に慣れていないドライバーが多数を占めているように思われます。

私が47年前に免許を取得した当時は雪の降る日も多く、当然タイヤチェーンは必需品でした。現在はスタッドレスタイヤ、融雪剤などの使用ですぐにチェーンを付けるということはないかもしれませんが、日陰などは凍結していることもあり、スリップ事故を起こさないためにもチェーン装着の仕方を覚えておくことも必要でしょう。

自分の車が、前輪駆動か後輪駆動か知っておくことも大事なことです。駆動輪にチェーンをかける、間違えると何の役にもたちません。これからが寒さの本番です。凍結、雪道には十分に気をつけて安全運転に心がけたいものです。

岡村

## 編集後記